

令和 2 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	61	学校名	茨城県立取手第二高等学校					課程	全日制		学校長名	広瀬 久美子				
教頭名	川田 利行										事務(室)長名	黒田 和男				
教職員数	教諭	30	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	11	実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	55
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計		クラス数		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	普通科	54	66	36	82	33	83			123	231	9				
家政科	0	40	1	37	0	38			1	115	3					

2 目指す学校像

(1) 生徒が充実した学びを得られる学校	(2) 生徒が主役となって互いに学び合える学校
(3) 教師が専門家として互いに育ち合える学校	(4) 生徒の進路希望が叶えられる学校
(5) 地域に開かれた魅力ある学校	

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	基礎的・基本的な学力は定着しつつあるが、学習時間・学習意欲とも不足している生徒が比較的多い。	ICT の活用を取り入れた授業内容を工夫し、学習意欲の向上を図るとともに家庭で学習する習慣を身につけさせる。
生徒指導	基本的な生活習慣が身に付いている生徒は増えてきたが、常に規範意識の向上が求められる。	生徒理解に努めるとともに、家庭との連携を強化し、問題行動等の未然防止と解消に努める。
進路指導	進学希望者は毎年 7 割程度おり、大学・短大への進学希望者は 3 割を超えて増加傾向にある。	進路指導の取組を通して、生徒の自己理解を促し、主体的で適切な進路選択と、その実現を支援する。
特別活動	学校行事には積極的に参加する生徒が多いが、部活動加入率は約 4 割である。	キャリアパスポートの活用や、学校行事や部活動、生徒会活動等への積極的な参加を促し、生徒が主体的に活動するための支援を行う。
業務改善	校務処理の電子化・共有化は十分に行われていない状況である。	情報セキュリティの向上や ICT を活用した校務の負担軽減・効率化を図る。

別紙様式 1

4 中期的目標

(1) 確かな学力を身に付けさせる。	(2) 自律的生活習慣の確立に努める。
(3) 健康や体力, 豊かな心を育む。	(4) 全ての生徒の進路決定に努める。
(5) 奉仕の心と望ましい勤労観の育成に努める。	(6) 働き方改革を意識した ICT の利用環境に努める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学習意欲を向上させるための授業実践	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を踏まえて基礎学力の定着を図るとともに, 家庭で学習する習慣を身に付けさせる。 ・教科ごとに公開授業を計画・実施することで, 互いの指導法改善に役立てる。 ・ICT を取り入れ, 生徒が主体的で深い学びを得られる授業を実践する。 ・チャイムと同時に授業を開始し, チャイムと同時に授業を終了させる。 ・ユニバーサルデザインを活用したわかりやすい授業の実践を目指す。
部活動加入率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「部活動に係る活動方針」に基づき, 心身ともに健全な人間の育成を目指す。 ・部活動の活性化をバネに, 何事にも積極的に行動する生徒の育成を目指す。 ・生徒と指導者の信頼関係に基づいた指導を展開する。 ・各部活動の活動内容を充実させることで, 加入率の増加を目指す。
社会で通用するマナー・ルールを身に付けさせる 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで挨拶できる習慣を身に付けさせる。 ・段階的指導を有効に活用し, 規範意識を高めるとともに公共の場におけるマナーを身に付けさせる。 ・集団の一員として他人の立場を尊重し, 思いやりの心で人と接することができるようにする。
基礎学力の定着を基にしたキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通して, 生徒が自己の進路希望を実現できるようなキャリア教育を推進する。 ・高校生活や卒業後の進路のあり方を考える機会の充実を図る。 ・デュアルシステムやインターンシップなどの実践により, 職業意識の高揚を図る。 ・3年生の時点で, 進路希望未決定者を0%にする。
生徒会・家政科・部活動を中心としたボランティア活動の推進及びキャリアパスポートを活用した特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を充実させて, リーダーの育成を図る。 ・市内清掃ボランティア等, 現在実施している行事を継承する。 ・校外施設との連携を図り, 新たなボランティア活動の取り組みを展開する。 ・キャリアパスポートを活用して生徒の自己有用感の向上を図る。
業務改善による教職員の多忙化の解消	<ul style="list-style-type: none"> ・校務における情報化を促進し, 業務の効率化を図る。